Blue Blood Passion

江連　泰知

あらすじ

とある架空の国、人間の国王が率いる軍勢と吸血鬼一族の戦いが勃発した。吸血鬼一族の次期当主、ブルース＝ドラクレシュティは人間の王子、エイブラハム＝ウァレリアヌスを死闘の末破るも、その間に彼の家族は国王軍に殺されてしまっていた。ブルースは王族への復讐を誓い、逃げ去っていく。一方、手傷を負ったエイブラハムは身分を隠して郊外の修道院に流れ着き、その修道女、エリザベス＝オリエッタに一目惚れする。

１６年後、エイブラハムとエリザベスの娘、スザンナは母の死をきっかけに伯父一家（オリエッタ家）に引き取られ、育てた恩を盾に理不尽な扱いを受ける日々を送っていた。

ある日の舞踏会、スザンナは召使としてオリエッタ家に同行する。そこで、ブランドンと姓を改めたブルースに出会う。復讐

を企むブルースは、王家の遠縁であるオリエッタ家の娘を娶ることで、王家に迫る足掛かりとしようと考えていた。

約半月後、所有していた商船が難破したことでオリエッタ家は没落し、長男ジニスが騎士学校に通う費用すら賄えない経済状況に陥る。そこへブルースの忠臣であるダニエル＝ジョーンズが現れ、金銭的援助と引き換えに娘を差し出せと要求する。

尻込みするオリエッタ家当主夫妻に対し、スザンナは自分を養女としてブルースに差し出すことを提案する。家庭内で唯一の味方だったジニスの学費のためである。

数日後、スザンナはブルースの屋敷に赴くが、その際、彼女を心配したジニスが馬車に潜んでついてきてしまっていたことを悟る。ジニスを探すスザンナは、ダニエルが狼男としての本性を現し、暴走しているところに出くわす。ジニスを逃がし、死を覚悟したスザンナを助けたのは吸血鬼の正

体を現したブルースであった。

翌日、スザンナはブルースの思い出の絵画（家族の肖像画）を修復することを申し出る。助けられた恩返し、および家族を失った孤独への共感からであった。

肖像画の修復を通じてスザンナとブルースは心を通わせ、スザンナの望みで共に舞踏会に赴くこととなる。そこでスザンナとブルースは互いの本心を聞き合い、ますます深く想い合う。

しかし、ブルースはスザンナの血液の味から彼女が仇である王族の直系に連なることを悟ってしまう。ブルースが愛憎の板挟みに苦しんでいると、折悪しくエイブラハムの軍勢が舞踏会場を強襲する。

ダニエルの援護により、ブルースはエイブラハムを追いつめるも、エイブラハムにスザンナの面影を感じて硬直した一瞬の隙を突かれて致命傷を負ってしまう。主の危機を察したダニエルはブルースを館へと連

れて帰る。

一方、スザンナはエイブラハムと対面し、自身が国王の娘であったことを知る。同時に、エイブラハムが愛するエリザベスを失った後悔を語るのを聞き、ブルースとの愛に生きることを決断する。

スザンナはブルースのもとに駆けつけ、自身の血を与えることでブルースを復活させる。目覚めたブルースは彼女の覚悟に応えるべく、逆に自身の血を与えてスザンナを吸血鬼として蘇生させる。

ブルースはスザンナと共にエイブラハムの前に現れ、彼女を吸血鬼としたことを以てして復讐の矛を収めることを宣言し、ダニエルを連れ、３人で人々の前から去っていく。

６０年後、スザンナはブルースおよび子供たちと共にジニスと再会する。ジニスはスザンナが幸福な生活を送っていることに安堵し、彼女ら一家の姿を絵に収める。

人物

スザンナ＝オリエッタ（４）（１６）

（７６）国王の落胤

ブルース＝ブランドン（１４）（３０）

（９０）吸血鬼

ダニエル＝ジョーンズ（２１）（８１）

ブルースの執事

ジニス＝オリエッタ（１２）（７２）

スザンナの従弟

エイブラハム＝ウァレリアヌス（１８）

（３４）国王

エリザベス＝オリエッタ（１８）

（２２）スザンナの母

リチャード＝オリエッタ（４２）スザンナの伯父

アリアナ＝オリエッタ（３８）スザンナの伯母

ローナ＝オリエッタ（１９）スザンナの従姉

マリー＝オリエッタ（１７）スザンナの従姉
カール＝ブルーフォード（５８）貴族
カーミラ＝ドラクレシュティ（２７）ブルースの母
ブラム＝ドラクレシュティ（３０）ブルースの父
エイブラハムの父
貴族Ａ
貴族Ｂ
貴族Ｃ
船長
貴族の娘Ａ
貴族の娘Ｂ
兵士長

○ドラクレシュティ邸・外観（夜）

古風な城が燃え盛っている。

城の周囲には甲冑を着た兵士達がいる。

夜空に星が輝いている。

○同・大広間・内（夜）

壁に椅子に座るブラムとその背後に立つカーミラ、ブルースを描いた肖像画がかけられている。

その下にブルース＝ブランドン（１４）がひざまずいており、灰の山に手を突っ込んでいる。

ブルースの背後にも灰の山があり、そこに純銀の剣が埋まっている、

ブルースの周囲に兵士の遺体が転がっている。

ブルース、灰を一握り取り、涙を流す。

炎が肖像画に燃え移る。

大広間の扉を開け、エイブラハムの父を先頭に兵士達が雪崩れ込んでくる。

ブルース、兵士達を睨んで咆哮を上げると、人間大の巨大な蝙蝠に変身し、大広間の天井をぶち抜いて逃げていく。

エイブラハムの父「追えい！吸血鬼は根絶やしにせよ！」

兵士の一人が隊列の後方からエイブラハムの父に近づき、耳打ちする。

エイブラハムの父「王子がおらぬだと！？」

肖像画が壁から落下する。

○森・内部（朝）

日の出前である。

森の中を、赤い宝石の首飾りを着け、鎧兜で武装したエイブラハム＝ウァレリアヌス（１８）が右肩を押さえながら、よろよろと歩いている。エイブラハムの右肩には２つの穴が空いている。

○修道院・外観（朝）

森と隣接した修道院。

○同・玄関・外（朝）

扉を開け、エリザベス＝オリエッタ（18）が鼻歌を歌いながら水瓶を持って出てくる。

エリザベス、裏手へ向かう。

○同・裏手・外（朝）

鎧兜で武装し、赤い宝石の首飾りを着けたエイブラハムが井戸の脇で倒れている。

水瓶を持ったエリザベスが現れ、エイブラハムを見て水瓶を落とす。

エリザベス「大変！」

エリザベス、エイブラハムに駆け寄る。

エリザベス「大丈夫ですかっ？」

エイブラハム、目を開ける。

エリザベス、微笑む。

エリザベス「良かったあ」

エイブラハム、エリザベスの微笑みを見て目を細める。

エイブラハム、力なく頭を下ろす。
エリザベス「しっかり！死なないで！」
エイブラハム、寝息を立てる。
エリザベス、笑って溜息をつく。
日が昇る。

○オリエッタ邸・外観（夜）
T・16年後。
錨の意匠の紋章が刻まれた大きな屋敷。
空に満月がある。

○同・ローナの部屋・外（夜）
メイド服を着て頭巾を被ったスザンナ＝オリエッタ（16）が部屋に向かって廊下を走っている。
スザンナは靴を手に持ち、首には赤い宝石の首飾りを着けている。靴にはリボンが付いているが、左足のリボンが欠けている。首飾りは宝石に修理の跡がある。

○同・内（夜）

ローナ＝オリエッタ（１９）とマリー＝オリエッタ（１７）が鏡台の前の椅子に座って笑いあっている。２人は豪奢なドレスを着ている。

マリーは裸足で、足元に靴が置かれている。

扉を開け、息を切らしたスザンナが入ってくる。

ローナ、スザンナを睨む。

ローナ「スザンナ！遅いじゃない」

スザンナ「ごめんなさい、ローナお姉様」

スザンナ、マリーの前へ進んでいく。

マリー、足をぶらぶらさせる。

マリー「そうそう！この靴の気分だったの」

スザンナ「どうぞ、マリーお姉様」

スザンナ、マリーの前にリボン付きの靴を置く。

マリー、リボン付きの靴を履く。

ローナ「待ちなさい、マリー」

マリー、首を傾げる。
ローナ、リボン付きの靴を見て、スザンナにビンタする。
スザンナ、後方に倒れる。
ローナ「あなたの目は節穴なの？」
スザンナ「え？」
ローナ「リボンが欠けてるじゃない！」
スザンナとマリー、欠けたリボンを見る。
マリー「えー、じゃあもう要らなーい」
マリー、リボン付きの靴を脱ぎ捨ててスザンナにぶつける。
スザンナ「靴が可哀そうです。直せばまだ」
ローナ「みっともないこと言わないで頂戴」
マリー、足元の靴を履く。
ローナ「そんなの貴族の振る舞いじゃないの」
ローナ、スザンナの首飾りを手に取る。
ローナ「あなたもこれ早く捨てなさいよ」
スザンナ「これだけは」
スザンナ、首を振る。

スザンナ「お母様の形見なんです」
マリー、ローナの後ろからスザンナの首飾りを見る。
マリー「あれ？それって」
ローナ「ええ、あんたが壊したやつよ」
ローナ、マリーの方を振り返って笑う。
スザンナ、首飾りを握る。
ローナ「借りたは良いけど、皆首飾りしか褒めないから癇癪起こしたの。覚えてる？」
マリー、頬を膨らます。
ローナ「今日はお淑やかになさいよ」
マリー「はーい」
ローナ、スザンナを見下ろす。
ローナとマリー、部屋の出口へ向かう。
ローナ「そうだ。スザンナ」
スザンナ「はい」
ローナ「舞踏会では、お姉様、は禁句よ」
スザンナ「え、どうして」
ローナ「あんたみたいのが妹だと勘違いされたら不名誉でしょう？」

マリー、クスクス笑う。
スザンナ、首飾りを握る。
スザンナ「わかり、ました」
ローナとマリー、部屋を出る。
スザンナ、深く溜息をつく。

○同・ダンスホール・内（夜）
多数の貴族達が踊っている。
ホールの隅に飲み物が置かれている。
リチャード＝オリエッタ（４２）とアリアナ＝オリエッタ（３８）が貴族に囲まれている。
ジニス＝オリエッタ（１２）がアリアナと手を繋いで周囲を見ている。
ローナ、マリー、スザンナが入ってきてアリアナの下へ向かっていく。
貴族Ａ「ほう！新大陸とも取引を？」
リチャード「年甲斐もなく冒険したくなってしまいましてね」
アリアナ「すっかり張り切ってしまって」

ローナら、アリアナの背後に着く。
ローナ「お父様、お母様」
アリアナ、振り返る。
アリアナ「あらあら！天使様がいらしたのかと思ったわ！」
アリアナ、貴族らに向き直る。
アリアナ「ご紹介しますわ。私の娘達ですの」
ローナ「ローナ＝オリエッタと申します」
マリー「マリー＝オリエッタです」
貴族ら、笑顔で会釈する。
ジニス「スザンナお姉様も！」
リチャード、笑顔が引き攣る。
アリアナ「（小声で）ジニス！」
貴族ら、スザンナを見る。
貴族B「そちらもご令嬢で？」
アリアナ「いえ！姪です」
貴族C「姪？」
アリアナ「（小声で）ほら、お前」
スザンナ「スザンナ＝オリエッタと申します」
貴族ら、おずおずと会釈する。

リチャード「妹の娘でして」
アリアナ「母親が病死したので、引き取りましたの」
貴族ら、ほーっと溜息をつく。
貴族C「父親はどうしたのです？」
リチャード「それが、わからずじまいで」
アリアナ「大方、身分もわからぬ卑しい男と通じたのでしょう」
リチャード「兄として恥ずかしい限りです」
スザンナ、首飾りを握る。
スザンナ「お母様を悪く言わないでください」
一同、スザンナを見る。
スザンナ「きっと何か事情が」
ローナ「育てて貰っておいてなんて言い草！」
ローナ、スザンナの頭巾を奪う。
スザンナの癖の強い巻き毛が現れる。
ローナ「あなたの心ってこの髪の毛みたいに捻じ曲がってるわ！」
ジニス以外の一同、笑う。
ジニス、ローナを睨みつける。

貴族Ａ「なるほどなるほど」
貴族Ｂ「この髪は貴人の血ではありませんな」
スザンナ、首飾りをより強く握る。
マリー「笑ったら喉乾いちゃったー」
アリアナ「丁度いいわ。スザンナ」
スザンナ、アリアナを見る。
アリアナ「皆様の分も取ってきなさい」
スザンナ、小さく息を吐く。
スザンナ「はい」
スザンナ、リチャードらから離れ、ホールを出ていく。

○同・玄関・外（夜）
屋敷の外に黒い馬車が停まっている。
馬車から仮面をつけ、ローブを着たブルース（３０）が降りてくる。ブルースの肌は青白い。

○同・ダンスホール・内（夜）
多数の貴族が踊っている。

リチャード、アリアナ、ローナ、マリー、ジニスが貴族に囲まれている。
ブルースが歩いている。貴族らはブルースが近付くと怪訝な顔で道を開ける。
貴族A「なんと！王家のご縁戚で？」
アリアナ「ええ！」
リチャード「遠縁ではございますがな」
ブルース、足を止めてアリアナの方を見て、歩き出す。
スザンナがワイングラスを載せた盆を持ってホール内に入り、アリアナらに向かって歩き出す。
スザンナ、ブルースにぶつかり、グラスを盆から落としてしまう。
ブルース、一瞬で全てのグラスを盆の上に置き直す。その際、ワインが一滴指に付着する。
スザンナ「ごめんなさ、あれ？」
スザンナ、グラスを見て首を傾げる。
ブルース「どうかしたか？」

ブルース、指に付いたワインを舐める。
スザンナ「あ、その」
ローナ、スザンナの方を向く。
ローナ「スザンナ、何をしているの！」
アリアナら、スザンナを見る。
スザンナ「はい、お姉様」
ブルース「待て、そなたオリエッタ家の者か」
スザンナ、小首をかしげる。
スザンナ「はい」
リチャード、スザンナの方へ来る。
アリアナ、ブルースを見て首を傾げる。
リチャード「どちら様でしょう？」
ブルース「ブルース＝ブランドン」
アリアナ「ブランドン？」
貴族A、アリアナに耳打ちする。
貴族A「（小声で）変人で有名な男です。貧乏人から血を買ってるとか」
ブルース「研究用だ。医学者の家系故」
アリアナ「ああ、思い出しましたわ」
アリアナ、ブルースの前に出る。

アリアナ「最近、爵位を拝領したとか」
ブルース「そうだ」
アリアナ「申し訳ございませんが、当家は由緒正しい貴人のみをお招きしておりまして」
ブルース「新興貴族は門前払いか」
アリアナ「そうは申しておりませんわ、ただ」
ブルース「ただ？」
アリアナ「血と金では釣り合わぬのです」
ブルース「確かに、私は金で爵位を買った」
アリアナ「まあまあ」
ブルース「逆に言えば、金なら唸るほどある」
ブルース、アリアナらに背を向ける。
ブルース「貴殿らがそれを頼みとすることもあろう」
ブルース、ホールの出口へと歩き出す。
スザンナとジニス以外の一同、笑う。
アリアナ「私達が財を失うことがあると？」
リチャード「夢物語と言うほかないですな」
スザンナ、盆を置いてブルースの側へ行く。

スザンナ「あの」
ブルース「なんだ」
スザンナ「さっきはありがとうございました」
ブルース、そっぽを向いて歩き出す。
スザンナ、その背を見送る。

○同・ジニスの部屋・内（夜）
ベッドにジニスが横になっている。
スザンナがベッド脇の椅子に座り、リボン付きの靴を補修している。
ジニス「ごめんなさいお姉様」
スザンナ「え？」
ジニス「僕、何もできなかった」
ジニス、毛布の端を握る。
ジニス「また、お姉様がいじめられてたのに」
スザンナ、首を振る。
スザンナ「気にしないで」
ジニス「でも」
スザンナ「それが私の役目だもの」
ジニス、首を振る。

スザンナ、作り笑顔をする。
スザンナ「それより、不思議な人だったわね」
ジニス「誰が？」
スザンナ「ブランドン卿よ、あの仮面の」
ジニス、ハッと息を飲む。
ジニス「吸血鬼！」
スザンナ「え？」
ジニス「ロバートが言ってたんだ！隠者の森には吸血鬼が住んでて、血を集めてるって」
スザンナ「血は研究用って言ってたじゃない」
ジニス「きっと嘘だよ！」
スザンナ、苦笑いする。
スザンナ「もう、頑固なんだから」
スザンナ、靴の修理を終わらせ、ジニスの毛布を首元まで上げる。
スザンナ「おとぎ話は卒業しなきゃだめよ」
ジニス、頬を膨らませる。
スザンナ「来月から騎士学校なんだから」
ジニス、パッと笑顔になる。
ジニス「うん！」

スザンナ、微笑む。

スザンナ「それじゃあおやすみ、ジニス」

ジニス「うん、スザンナお姉様」

スザンナ、ジニスに手を振って部屋を出る。

○海・商船・外観（夜）

T・半月後。

帆に錨の意匠の紋章が描かれた大型商船が、凪の海を航行している。

商船にはボートが備え付けられている。

○同・見張り台（夜）

船員が望遠鏡で海上の様子を見ている。

腐乱死体のような外見のゾンビ（以下、亡者）がマストを登って見張り台に到達する。

船員と亡者、望遠鏡越しに目が合う。

船員、望遠鏡から目を外し、亡者を視認して悲鳴を上げる。

○同・甲板（夜）

船員達が亡者に追われ逃げ回っている。

船長「総員、退避！船を捨てろー！」

船員達、ボートに乗って商船を脱出する。

○同・海上（夜）

船員達がボートに乗り、商船を遠巻きに見ている。

亡者らが商船を破壊している。

商船が海に沈む。

○ブランドン邸・外観（夜）

赤を基調とした、尖塔のある豪奢な屋敷が、三日月に照らされている。

屋敷は森に囲まれている。

○同・食堂・内（夜）

ブルースが手紙を手に座っており、その前に血液入りのグラスが置かれてい

る。手紙には「オリエッタ家、破産」と書かれている。

ブルース、ニヤリと笑って血液を飲む。

狼の遠吠えが聞こえる。

○オリエッタ邸・玄関・外（朝）

館の玄関を２人の憲兵が塞いでいる。

玄関先にオリエッタ家の一同がおり、皆みすぼらしい格好で手荷物を持っている。スザンナの手荷物が一番多い。

リチャードは力なく館を見つめている。

アリアナ、ジニスの手を握り、ハンカチを鼻にあててすすり泣いている。

ローナとマリー、肩を寄せ合って泣いている。

スザンナ、俯いている。

リチャード、深呼吸する。

リチャード「行こう」

リチャード、館に背を向けて歩き出す。

アリアナは頷き、ジニスの手を引いて

リチャードに続く。
ローナ、マリー、スザンナがそれに続く。

○新オリエッタ邸・外観
古ぼけた埃っぽい館。

○同・玄関・外
みすぼらしい格好のオリエッタ家一同が玄関先に立っている。アリアナはジニスと手を繋いでいる。
マリー「(震え声で)これから、ここに住むの？」
リチャード、頷く。
ローナ「夢よ、これは悪い夢なんだわ」
ローナ、膝から崩れ落ちる。
スザンナ、館を見上げる。

○同・廊下・内（夕）
蜘蛛の巣のはった廊下を、スザンナが掃除している。

アリアナの声「ブランドンの使いですって？」
スザンナ、玄関の方を見る。
○同・玄関・内
ダニエル＝ジョーンズ（２１）が玄関扉を背に立っている。
リチャードとアリアナがダニエルに向かいあっている。リチャードは腕を組んでいる。
リチャード「我が家に金銭的援助を？」
ダニエル「ええ」
スザンナが廊下から来て、ダニエルから見えない角に身を隠す。
ダニエル「王家に連なる一族の没落、我が主は大層心を痛めておいでです」
リチャード「見返りは？何が欲しいのかね」
ダニエル、口の端を上げる。
ダニエル「我が主は、御家と金銭に留まらぬ、より深い、血の繋がりを欲しておいでです」
リチャード、顔をしかめる。

リチャード「娘を寄越せということか」
ダニエル、小さく頷く。
アリアナ「冗談じゃないわ！」
アリアナ、両拳を握り、歯を剥き出しにする。
アリアナ「私の可愛い娘は、由緒正しい貴族に嫁がせると決めているのです！」
ダニエル「今の御家にそのような縁談が組めるとお思いで？」
アリアナ、呻く。
ダニエル「それにご子息も」
スザンナ、首を伸ばしダニエルを見る。
ダニエル「このままでは騎士学校に通う費用も賄えぬでしょう」
スザンナ、ハッと息を吐き、口を押さえる。
リチャード「我が家が没落した途端に。貴様の主人はハゲタカのごとき下衆だっ」
ダニエル、犬歯を剥き出しにする。
ダニエル「ハゲタカに頼らねば生きられぬ虫

けらがほざくなよ」
リチャードとアリアナ、身を震わせる。
ダニエル、口を押える。
ダニエル「おっと失礼。では」
ダニエル、恭しくお辞儀する。
ダニエル「色よい返事をお待ちしております」
ダニエル、玄関から出ていく。
アリアナ、リチャードに縋りついて崩れる。
スザンナ、自分の身をギュッと抱きしめる。

○同・スザンナの部屋・内（夜）
スザンナが毛布に包まり、赤い宝石の首飾りを手にして見つめている。
スザンナ、溜息をつく。
扉が叩かれる。
スザンナ「はい、今」
扉が開くと、そこに枕を抱えたジニスがいる。

スザンナ「ジニス」
ジニス、頷く。
○同・ジニスの部屋・内（夜）
ベッドでジニスが横になっている。
スザンナがベッドに腰かけている。
ジニス「僕、騎士になれないのかな」
スザンナ「どうしてそんなこと」
スザンナ、息を飲む。
スザンナ「お父様達の話、聞いてたの？」
ジニス、頷く。
スザンナ、ジニスの頭を撫でる。
ジニス「スザンナお姉様」
スザンナ「なあに？」
ジニス「僕、何でもする。騎士になれるなら」
スザンナ「どうしても、なりたいの？」
ジニス、頷いて毛布を口元まで上げる。
ジニス「騎士になってお姉様を守るんだ」
スザンナ「ジニス」
スザンナ、口元を押える。

スザンナ「ありがとう」
ジニス「うん」
スザンナ「さ、今日はもう寝なさい」
スザンナ、ジニスの額にキスをする。
スザンナ「私の可愛い騎士様」
ジニス、毛布を頭の上にまでかける。
ジニス「可愛くないもん」
スザンナ、微笑んで部屋を出ていく。

○同・外（夜）
スザンナが扉を開けて部屋の中を見ている。
スザンナ、後ろ手に扉を閉じ、深呼吸して頷く。

○同・外観（朝）
朝日に照らされる館。

○同・食堂・内（朝）
リチャードとアリアナが向かい合って

座っている。リチャードは肘をついて手を組み、アリアナは頭を抱えて俯いている。２人共やつれている。

リチャード「アリアナ、やはり」

アリアナ、顔を上げる。

アリアナ「絶対に嫌。ローナもマリーも渡すものですか」

リチャード「私だってそうさ。しかし」

アリアナ「しかし、何！？」

アリアナ、テーブルを叩く。

スザンナが入ってくる。

アリアナ「何なの？」

スザンナ「ブランドン卿の件についてお話が」

リチャード「何故それを？」

スザンナ「昨日、偶々聞いてしまいまして」

アリアナ、スザンナを睨む。

アリアナ「お前もあの男に取り入れと言うの」

スザンナ「ジニスの学費のためには、そうするしかないのですよね？」

リチャード「そうだ」

アリアナ「お前も私の可愛い娘を差し出せというの？育ててやった恩も忘れて！」
スザンナ「忘れていません。恩は返します」
アリアナ、鼻で笑う。
アリアナ「穀潰しのお前が？どうやって？」
スザンナ「私がブランドン卿に嫁ぎます」
リチャードとアリアナ、ポカンと口を開ける。
スザンナ「ですので、差し出がましいですが、養子にして欲しいのです」
リチャード「そうか。その手があったか」
アリアナ「じゃあ、私の娘は大丈夫なの？」
リチャード、頷く。
リチャード「養子でも娘だ。文句は言わせん」
アリアナ、小躍りして天を仰ぐ。
アリアナ「ああ！神様！」
アリアナ、スザンナを見る。
アリアナ「お前を育ててよかったって、初めて思ったわ！」
スザンナ「お役に立てて嬉しいです」

スザンナ、俯く。

○ブランドン邸・外観（朝）

曇天である。

○同・北の尖塔・ブルースの部屋・内（朝）

窓には厚いカーテンがかけられている。ブルースが部屋の中央にある棺桶の中で眠っている。

部屋の隅に、ブルースと両親の肖像画がある。ブルースの両親を描いた部分は焼けて絵の具が剥げている。

○（回想）ドラクレシュティ邸・書斎・内

ブラム（３０）が椅子に座り、その後ろにブルース（１４）、カーミラ（２７）が立っている。

ブルースらの正面に画家が座り、キャンバスにブルースと両親の肖像画を描いている。

画家、肖像画を描き終え、ブルースらの方にキャンバスを向ける。
画家「こちらで完成でございます」
ブラム「うむ、大儀であった」
カーミラ「まあまあ。ブルース」
カーミラ、ブルースの肩に手を置く。
カーミラ「あなたにそっくり、男前よ」
ブルース「母上こそ、絵でも変わらぬ美しさにございます」
ブラム「おいおい」
ブラム、ブルースらの方を向く。
ブラム「私の話はしてくれないのかね？」
カーミラ、ブラムの肩を叩く。
カーミラ「勿論、あなたもハンサムに決まっていますわっ」
ブルース、ニヤリと笑って頷く。
ブラム、高笑いし、画家に向かって頷く。
画家、恭しくお辞儀する。
ブルース「時に父上」

ブラム「なんだ？」
ブルース「この絵はどこに飾るおつもりで？」
ブラム「大広間の予定だ」
ブルース「ええ！？」
ブラム「何だ、不服か？」
ブルース「いえ、ただ」
ブラム「ん？」
ブルース「なにぶん人通りが多いので」
ブラム「我が幸福の象徴ぞ。目立つところに飾らずしてどうする」
ブルース、苦笑いする。
ブルース「気恥ずかしゅうございますな」
ブラム、居住まいを正す。
ブラム「ブルース」
ブルース「はっ？」
ブラム「そなたも良き家族を持つのだぞ」
カーミラ、頷く。
ブルース「ええ」
ブルース、ブラムの肩に手を置く。
ブルース「父上のように偉大な男となり」

ブルース、カーミラを見る。
ブルース「母上のような芯の強い女性を花嫁に迎えたいものです」
ブラムとカーミラ、笑う。
ブルース、ニヤッと笑う。

○（回想）同・大広間・内（夜）
壁際で、深い切り傷を負ったカーミラが倒れ、ブラムがその前で仁王立ちして死んでいる。ブラムの腹には純銀製の剣が刺さっている。
カーミラの頭上にカーミラ、ブラム、ブルースを描いた肖像画がある。
カーミラらの周囲には兵士達の遺体が転がっている。
ブルース（１４）が牙から赤い血を、怪我から青い血を垂らしながらブラムに向かってよろよろと歩いている。
ブルース「父上」
ブルース、ブラムに手を伸ばす。

ブラムの体が灰になり、その灰の中に純銀の剣が埋もれる。

ブルース、伸ばした手を震わせながら拳を握る。ブルース、カーミラを見て目を見開く。

ブルース「母上！」

ブルース、カーミラに駆け寄る。

ブルース「母上！お気を確かに、母上！」

ブルース、しゃがんでカーミラを抱き起す。

カーミラ、目を開ける。

ブルース「良かった、生きて」

カーミラ、震える手でブルースの頬を撫でて微笑み、灰になる。

ブルース、泣きながら咆哮する。

〇元のブルースの部屋・内

窓には厚いカーテンが欠けられている。部屋の隅にブルースと両親の焼けた肖像画がある。

外から雨の音が聞こえている。
ブルースが部屋の中央にある棺桶の中で横になっている。ブルース、叫んで棺桶の蓋を跳ね飛ばして起き上がる。
ブルース、肩で息をする。
ダニエルが走って部屋に入ってくる。
ダニエル「我が君！」
ブルース、頭を押さえる。
ブルース「いや、気にするな」
ダニエル「また、夢を？」
ブルース「ああ」
ダニエル「おいたわしや」
ブルース「いや、むしろ天祐」
ダニエル「と、申されますと？」
ブルース、胸に手を当てる。
ブルース「あの日の痛みを忘れずにすむ」
ダニエル、目を伏せる。
ブルース「オリエッタ家の件はいかがした？」
ダニエル「娘を差し出すと決めたようです」
ブルース「左様か」

ダニエル「しかし癪ですな」
ブルース「何がだ」
ダニエル「王家の血筋を喧伝していた割には、殆ど他人に等しき血の薄さでした故」
ブルース「それでも、人間社会では意義があるのだ」
ダニエル「下らぬことです」
ブルース「だが、利用できる。オリエッタを足掛かりに王の喉笛に食らいつくのだ」
ブルース、拳を握る。
ブルース「復讐の時は近いぞ、ダニー」
ダニエル「はっ！」
ブルース、溜息をつく。
ダニエル「夜には時間がございます。もう少しお眠りになられては？」
ブルース、頷く。
ダニエル、棺桶の蓋を持ち上げる。
ブルース「待て」
ダニエル「何でございましょう」
ブルース「この部屋に花嫁を通す気はないが」

ブルース、肖像画に視線を送る。
ブルース「あの絵は、念のため決して目につかぬところに隠すべきかもしれんな」
ダニエル「御意」
ダニエル、棺桶の蓋を閉め、肖像画を恭しく抱えて部屋を出る。
ブルース、目を閉じる。

○新オリエッタ邸・外観（朝）
T・数日後。

○同・スザンナの部屋・内（朝）
赤い宝石の首飾りをしたスザンナが荷造りをしている。
扉を開けてジニスが入ってくる。
スザンナ「ジニス」
ジニス、ズボンをギュッと握る。
スザンナ「どうしたの？」
ジニス、スザンナに抱きつく。
ジニス「お姉様、行かないで」

スザンナ、ジニスを抱きしめる。
スザンナ「ごめんね。行かなきゃいけないの」
ジニス「僕のせい？騎士学校のために」
スザンナ「何言ってるの」
スザンナ、しゃがんでジニスと視線を合わせる。
スザンナ「そんなこと思っちゃダメ」
ジニス、おずおずと頷く。
スザンナ「私のことなんて忘れなさい」
ジニス「無理だよ！」
ジニス、スザンナに抱きついて泣き出す。
スザンナ「わかった」
ジニス「え？」
スザンナ、首飾りを外してジニスに握らせる。
ジニス、首を振る。
ジニス「お姉様の宝物なのに」
スザンナ、頷く。
スザンナ「私の代わりに、あなたを守るわ」

ジニス、荒く呼吸する。
ジニス「お姉様、やっぱり死んじゃうの」
スザンナ「え？」
ジニス「吸血鬼のとこに行くから、死んじゃうから、これを僕に」
スザンナ、苦笑いする。
スザンナ「そんなわけないでしょ」
スザンナ、ジニスの両頬に触れる。
スザンナ「もう泣かないで」
ジニス、しゃくりあげる。
スザンナ「今日から騎士学校なんでしょ？」
ジニス「うん」
スザンナ「強い、ううん、優しい騎士になるのよ」
ジニス、涙を堪えて頷く。
スザンナ、微笑んで頷く。
スザンナ「さ、行きなさい。迎えが来るわ」
ジニス、頷き、走って部屋を出ていく。
スザンナ「大好きよ、ジニス」
スザンナ、顔を押さえて嗚咽を上げる。

○同・玄関・外

スザンナとリチャードが荷物を持って玄関の前に立っている。

黒い馬車が来て、ダニエルが降りてくる。

ダニエル「お久しぶりです、オリエッタ様」

リチャード、頷く。

ダニエル、スザンナを見る。

ダニエル「スザンナ様ですね？」

スザンナ「はい」

ダニエル「私（わたくし）、執事のダニエル＝ジョーンズと申します。以後お見知りおきを」

スザンナ、お辞儀する。

ダニエル「お荷物をお預かりしましょう」

スザンナ「ありがとうございます」

スザンナ、荷物をダニエルに渡す。

ジニスが塀の陰に現れ、スザンナ達の様子を窺い始める。

ダニエル、荷物を荷台に乗せてスザンナ達の前に戻ってくる。

ダニエル「他のご家族は？お見送りなどよろしいのですか？」
リチャード「妻と娘達は外出中だ」
ジニス、塀の陰から忍び足で出てきて、荷台に潜り込む。
ダニエル「ご子息は？」
リチャード「今頃騎士学校の寄宿舎だろう」
ダニエル「淡白ですなあ。まあいいでしょう」
ダニエル、スザンナに手を差し出す。
ダニエル「参りましょう」
スザンナ、おずおずと頷いてダニエルの手を取り、ダニエルの導きで馬車に乗る。
ダニエル、御者席に乗る。
スザンナ「伯父様」
スザンナ、リチャードの方へ顔を出す。
スザンナ「今まで本当にお世話になりました」
スザンナ、頭を下げる。
リチャード、スザンナから目を逸らす。
ダニエル「出発しますよ」

馬車が走り出す。

○ブランドン邸・玄関・外（夕）

玄関先にスザンナが乗った黒い馬車が停まっている。

御者席にはダニエルが荒い呼吸をしながら座っている。

ダニエル、呼吸を整えて御者席から降り、スザンナを馬車から降ろす。

スザンナ「ダニエルさん、大丈夫ですか？」

ダニエル「はい？」

スザンナ「何だかとても辛そうで」

ダニエル「お気になさらず、それより」

ダニエル、ブランドン邸を見上げる。

ダニエル「我が主がお待ちです」

スザンナ、ブランドン邸を見上げて息を飲む。

スザンナ「はい」

ダニエル「お荷物は後程お持ちしましょう」

ダニエル、スザンナを連れ邸内に入る。

ジニスが荷台から出てくる。

○同・エントランスホール・内（夕）

２階建て吹き抜けのホール。

天井にブルースが逆さまにぶら下がっている。

ダニエルの先導でスザンナが入ってくる。

スザンナ、ホール内をキョロキョロと見る。

ブルース、２階部分に降り立つ。

ダニエル、跪いてお辞儀をする。

ブルース「久方ぶりだな」

スザンナ、ブルースの方を見上げる。

ブルース「舞踏会以来か」

ブルース、階段を降りてくる。

スザンナ、ブルースにお辞儀する。

スザンナ「スザンナ＝オリエッタと申します」

スザンナ、顔を上げる。

スザンナ「不束者ですが」

ブルース、スザンナの顎を摘んで自分の方を向かせる。
ブルース「多くは求めん」
スザンナ、唾を飲み込む。
ブルース「書庫には入るな。それだけだ」
スザンナ「は、はい」
ブルース「後は人形のようにおとなしくしていればよい」
スザンナ、おずおずと頷く。
ブルース、スザンナに背を向ける。
ブルース「来い、ダニー」
ダニエル「はっ」
ブルースとダニエル、玄関ホール奥の扉から出ていく。
スザンナ、深く息を吐く。
スザンナ「あっ、荷物は？」
スザンナ、片手で頬を押える。
○同・玄関ホール・外（夕）
スザンナが馬車の荷台の前に立っている。

スザンナ、荷台を開ける。
スザンナ、荷台に赤い宝石の首飾りがあるのを見てハッと息を漏らす。
スザンナ「どうしてこれが」
スザンナ、首飾りを手に取る。
スザンナ「ジニス？」
スザンナ、ブランドン邸を見上げる。

○同・書庫・内（夕）
人の背丈ほどの本棚がいくつか並んでいる。部屋の隅には布で覆われたキャンバスが置かれている。
ブルース、壁際の本棚の前に立っている。この本棚には黒い背表紙の本が5冊入れられている。
ダニエル、壁に手をついて喉を鳴らしている。
ジニスが本棚の陰からブルース達の様子を見ている。
ブルース「抑えられるか？ダニー」

ダニエル「日没までは、恐らく」
ブルース「左様か。耐えろよ」
ブルース、黒い背表紙の本を並べ替え、それぞれを直線で結ぶと逆向きの星形を描くようにする。
本棚がスライドして奥に続く扉が現れる。
ブルースとダニエル、扉を開けて奥へ進む。
本棚がスライドして扉を隠す。
ジニス、本棚の陰から出て息を飲む。

○同・廊下（夜）
廊下には扉が並んでいる。
スザンナが廊下を歩いている。
スザンナ、扉の１つを開け、中を見る。
スザンナ「（小声で）ジニス、いるの？」
スザンナ、首を振って扉を閉め、歩き出す。

○同・外観（夜）

ブランドン邸を満月が照らしている。

○同・書庫・外（夜）

書庫の扉の前にスザンナが立っている。

スザンナ、扉を開けて室内に入る。

○同・内（夜）

壁際、奥へ続く扉が露出している。

スザンナが室内に入ってくる。

スザンナ、恐る恐る歩き出す。

スザンナ「（小声で）ジニス、ジニス？」

スザンナ、布で覆われたキャンバスの前に来て、布を取り去る。

ブルースと両親の焼けた肖像画が露わになる。

スザンナ、首を傾げ、絵画の焼けた部分を触る。

スザンナ「これ、ブランドンさんかしら」

奥に続く扉から狼の唸り声が聞こえる。

スザンナ、奥へ続く扉へ向かい、開ける。

地下へ続く階段が現れる。

○同・地下牢・内（夜）

牢が立ち並んでいる。

スザンナが牢の間を歩いている。

鉄格子が砕ける音が響く。

スザンナ「ジニス、ジニスいるの？」

地下牢の奥からジニスが走ってくる。

ジニス「お姉様！？」

スザンナ「ジニス！」

スザンナ、ジニスを抱きとめようとする。

ジニス「お姉様、走って！あいつが来る！」

スザンナ「あいつ？」

ジニスを追って巨大な狼に変身したダニエルがのっそりと歩いて来る。

スザンナ、悲鳴を上げ、ジニスの手を引いて元来た道を走る。

ダニエル、咆哮する。

○同・書庫・内（夜）

ブルースと両親の焼けた肖像画が部屋の隅に置かれている。

奥に続く扉からスザンナとジニスが出てきて、扉を閉める。

スザンナとジニス、息を整える。

スザンナ「どうしてついてきたの」

ジニス「だって、吸血鬼、お姉様」

扉の奥から走る足音が聞こえてくる。

スザンナ「ジニス！」

スザンナ、ジニスを突き飛ばす。

扉をぶち抜いて狼の姿のダニエルが飛び出してきてスザンナの脚をかすめながら本棚に突っ込む。本棚が崩れてダニエルにのしかかる。

肖像画が倒れる。

スザンナは脚を負傷する。

ジニス、スザンナに駆け寄ろうとする。

ジニス「お姉様！」
スザンナ「来ちゃダメ！逃げなさい！」
ジニス「でも！」
スザンナ「私のことなんかいいの！」
ジニス「そんな」
崩れた本棚が揺れる。
スザンナ「早く！」
ジニス「う、うわあああっ！」
ジニス、絶叫して部屋を出ていく。
スザンナ、引きつった笑みを浮かべる。
崩れた本棚を跳ね飛ばしてダニエルが現れる。
ダニエル、スザンナを見て唸る。
スザンナ、腕の力だけで後退りする。
ダニエル、咆哮を上げてスザンナに飛びかかろうとする。
巨大な蝙蝠に変身したブルースがダニエルを横から突き飛ばす。
ブルースとダニエルはもつれ合い、ブルースが翼でダニエルを締め上げる。

ダニエル、暴れるが、その動きは次第に弱々しくなって気絶する。
ブルース、人間の姿に変身し、スザンナを睨む。
スザンナ「あ、ああっ」
ブルース、スザンナに近づいて首元を掴む。
ブルース「たった1つの命令も守れぬとはな」
スザンナ「ご、ごめんなさい。ここが書庫って知らなくて」
ブルース、スザンナから視線を逸らす。
ブルース「(小声で)言い忘れた、か」
ブルース、倒れた肖像画を見て目を見開く。ブルース、スザンナを荒々しく離して肖像画の下へ行く。
スザンナ、首を押さえて咳きこむ。
ブルース、肖像画を立て、まじまじと見た後に撫でて溜息をつく。
スザンナ、それを見て首を傾げる。
ブルース、スザンナに向き直る。

ブルース「部屋に戻れ」
スザンナ「その、私」
ブルース「追って沙汰を言い渡す」
スザンナ、俯く。
スザンナ「はい」
ブルース、ダニエルの下へ行ってスザンナに背を向ける。
スザンナ、扉の前まで行き、ブルースを振り返る。
スザンナ、お辞儀をして出ていく。

○同・外観（朝）
屋敷が朝日に照らされている。

○同・スザンナの部屋・内（朝）
スザンナがベッドでうなされている。
スザンナの脚の傷をダニエルがしゃがんで手当てしている。
スザンナ、目を開け、ダニエルを見て、悲鳴を上げる。スザンナ、脚を動かそ

うとして顔をしかめる。
スザンナ「痛っ」
ダニエル「驚かせて申し訳ございません」
ダニエル、立ち上がる。
ダニエル「しかし、早急に手当てせねば。感染症の恐れもございます故」
スザンナ「あ、はい」
スザンナ、ベッドの上に座り、お辞儀する。
スザンナ「ありがとうございます」
ダニエル、首を振る。
ダニエル「お見苦しいものをお見せしました」
スザンナ「お見苦しい？」
ダニエル、顔を上げて頷く。
ダニエル「私が、あの狼男でございます」
スザンナ「そうでしたの」
ダニエル「夜、狼となっても普段は制御できるのですが、満月ではそうもいかず」
スザンナ「具合が悪そうだったのも何か」
ダニエル「夜が近付き気が昂っていたのです」

スザンナ、溜息をつく。
スザンナ「良かった」
ダニエル「は？」
スザンナ「ご病気かと思って心配だったので」
ダニエル「左様でございますか」
スザンナ、はっと口元を押える。
スザンナ「ダニエルさん」
ダニエル「はっ」
スザンナ「ブランドンさんは、もしかして」
ダニエル、頷く。

○同・北の尖塔ブルースの部屋・内（朝）
ブルースが蓋をした棺桶に座り、血液の入ったグラスを手にし、焼けた肖像画を見ている。
ダニエルの声「吸血鬼にございます」
ブルース、血液を飲み干す。

○同・スザンナの部屋・内（朝）
スザンナ、ベッドの上に座っている。

ダニエルがその正面に立っている。
スザンナ「あ、いえ、そうじゃなくて」
ダニエル「はっ？」
スザンナ「ご家族、亡くなっているのでは」
ダニエル「ええ、まあ」
スザンナ「やっぱり」
スザンナ、顎に手を当てて俯く。
ダニエル、首を傾げる。

○同・外観（夕）
夕日に照らされる館。

○同・スザンナの部屋・内（夕）
ベッドの上にスザンナが座り、羊皮紙にブルースと両親の肖像画を（焼けた部分も含め）スケッチで再現している。
扉が開き、ブルースが入ってくる。
ブルース「そなたの処遇について話がある」
スザンナ、羊皮紙を背後に隠す。
ブルース「何を隠した？」

スザンナ「いえ、お見せするようなものでは」
ブルース、スザンナに近づく。
ブルース「隠し事は許さぬ。見せろ」
スザンナ、おずおずと羊皮紙をブルースに差し出す。
ブルース、肖像画のスケッチを見て、息を飲む。
ブルース「そなた、これをどうやって」
スザンナ「ごめんなさい、書庫で見て」
ブルース「左様なことは聞いておらん！」
ブルース、スケッチをスザンナに向け、ブルースの両親を描いた部分を示す。
ブルース「ここは焼けていた筈、どうやって」
スザンナ「推測しましたの」
ブルース「推測だと？」
スザンナ「焼け残りが少しあったのと、触った時の感触から推測したんです」
ブルース「そんなことが可能なのか」
スザンナ、唾を飲み込む。
スザンナ「あのっ！」

ブルース、スザンナを睨む。
スザンナ「その絵をもう一度見せて、いえ」
スザンナ、首を振る。
スザンナ「私に、修復させてください」
ブルース「そなた正気か？」
ブルース、スザンナを睨む。
ブルース「一体何のつもりだ？」
スザンナ「可哀そうだと思いまして」
ブルース「可哀そうだと？」
スザンナ「ずっと焼けちゃったままなんて、絵が可哀そうで」
ブルース、目を伏せる。
スザンナ「それに」
ブルース、スザンナに向き直る。
スザンナ「ブランドンさんも、ご家族の顔を直してあげたいんじゃないかと思って」
ブルース「私のためということか？なぜだ」
スザンナ「助けてもらったお礼です」
ブルース、天を仰いで深く息を吐く。
ブルース「あいわかった」

スザンナ「ありがとうございますっ」
ブルース、スザンナが言い切る前に手で制する。
ブルース「だが、条件がある」
スザンナ「はい」
ブルース「修復に失敗したら、そなたの血を吸い尽くす。それでもやるか？」
スザンナ、目を見開いた後、深呼吸する。
スザンナ「必ず、成功させます」
ブルース、スザンナに背を向ける。
ブルース「来い」
スザンナ「え」
ブルース「膏薬の効果で脚は治っておろう」
スザンナ「はい！」
ブルース、次いでスザンナが部屋を出る。

○同・北の尖塔ブルースの部屋・内（夜）
ブルースの家族の肖像画が置かれ、そ

の焼け焦げた部分をスザンナが絵の具で修復している。スザンナは赤い宝石の首飾りを着けている。

ブルース、スザンナの背後で、棺桶に座ってその様子を睨んでいる。

○同・外観（朝）

日の出である。

○同・北の尖塔ブルースの部屋・内（朝）

キャンバスにブルースの家族の肖像画が置かれ、ブルースの母の唇にスザンナが赤い絵の具を塗っている。スザンナは赤い宝石の首飾りを着けている。

ブルース、棺桶に座って肖像画を見ている。

スザンナ、筆をおき、ブルースを振り返る。

スザンナ「ブランドンさん」

ブルース、唾を飲み込む。

スザンナ、肖像画の前からどいてブルースに見せる。

ブルース、わなわなと口を開け、肖像画に飛びつく。

ブルース「信じられぬ」

ブルース、ブラムの絵を撫でる。

ブルース「父上」

ブルース、カーラの絵を撫でる。

ブルース「母上」

ブルース、膝の上で拳を握り、涙を堪える。

スザンナ、首飾りを握る。

○（回想）オリエッタ邸・外観（夜）

土砂降りである。

○（回想）同・客室・内（夜）

頬のこけたエリザベス（２２）がベッドで横になっている。エリザベスは赤い宝石の首飾りを着けている。

スザンナ（4）がその脇に立って俯き、
両手を握り合わせている。
スザンナ「やだ、お母様、お母様」
エリザベス、毛布の下から手を伸ばし
てスザンナの手を取る。
スザンナ、エリザベスの顔を見る。
エリザベス、スザンナに微笑む。
スザンナ、エリザベスの手を強く握り、
しゃくりあげる。

○元のブルースの部屋・内（朝）
ブルースがキャンバスに置かれた家族
の肖像画の前で膝をつき、膝の上で拳
を握って涙を堪えている。
スザンナはブルースの隣に座り、両手
を握り合わせている。
スザンナ、ブルースの手を取る。
ブルース、スザンナの顔を見る。
ブルース、スザンナの手を強く握って
嗚咽を上げる。

スザンナ、ブルースの背中をポンポンと叩く。

○隠者の森・内部（夕）

ジニスが木の下で拘束され震えている。亡者らがジニスの周囲にいる。亡者の一人（以下、伝令亡者）は片耳の欠けた蝙蝠の入った鳥籠を持っている。

伝令亡者、鳥籠を開けて蝙蝠を放す。ジニス、蝙蝠を目で追う。

矢が飛んできて亡者らが射抜かれる。ジニスが振り向くと、鎧兜で武装したエイブラハム（３４）と兵士達が弓を持って立っている。

○ブランドン邸・スザンナの部屋・内

裸のブルースがベッドで寝ている。ベッドにはもう１人寝ていた形跡がある。

ブルース、頭を振りながら起き上がる。
窓の外からスザンナとダニエルの笑い声が聞こえてくる。
ブルース、窓の方を向く。

○同・庭・外

頭巾をしたスザンナが折れた薬草の苗木を支柱で補修している。
ダニエルが背後から身を乗り出してそれを見ている。

ダニエル「こうすれば直ると。博識ですなあ」
スザンナ「いえ私なんて。ダニエルさんこそ」
ダニエル「はい？」
スザンナ「薬草にお詳しくて、驚きました」
ダニエル「死活問題ですので」
スザンナ「死活問題？」
ブルースの声「我らには人間用の薬は効かぬのでな」
スザンナとダニエル、振り向く。
屋敷の方からブルースが歩いて来る。

ブルースは厚着をして、仮面をつけ、日傘を持っている。
日傘の裏には片耳の欠けた蝙蝠が止まっている。
ブルース「尤も大半の怪我は自然治癒するが」
スザンナ「ブルース」
スザンナ、口元を押える。
スザンナ「あ、いえ、ブランドンさん」
ブルース「構わぬ。ブルースでよい」
スザンナ「は、はい、ブルース」
ダニエル「久方ぶりによく眠れたようですな」
ブルース「まあな。スザンナのおかげだ」
スザンナ「私、何も」
ブルース「我が宝を直してくれたではないか。それに」
ブルース、スザンナを見つめる。
スザンナ、小首を傾げる。
ブルース、咳払いをして首を振る。
ブルース「それより礼をしたい。望みを申せ」
スザンナ「お礼なんて」

スザンナ、ハッと息を飲む。
スザンナ「あの、実は昨日弟がここに来てて」
ブルース「存じておる」
ダニエル、鼻をクンクンさせる。
ダニエル「匂いが残っておりました故」
スザンナ、何度か頷く。
ブルース「それで？」
スザンナ「心配で、ちゃんと家に帰れたのか」
ブルース「それなら、亡者どもが保護したとこやつから報告があった」
ブルース、日傘を傾けて蝙蝠をスザンナに見せる。
スザンナ「亡者？」
ダニエル「死人に吸血鬼の血を与えると、意志を持った人形と化すのです」
スザンナ「えっ」
ブルース「誤解するな。墓荒らしなどはしておらぬ。罪人や縁者無き者の死体が素材だ」
スザンナ、苦笑いする。
ブルース「それで、よもや弟の保護が望みか？」

スザンナ「はい！ありがとうございました」
ブルース「それは勘定に入れずともよい」
スザンナ「ですが」
ダニエル「ご遠慮なさらず。昔からの夢とか、
ございませぬか？」
スザンナ「夢」
スザンナ、唾を飲み込む。
スザンナ「私、昔から、舞踏会で踊りたくて」
突風が吹き、スザンナの頭巾を飛ばす。
スザンナ、自分の髪を掴む。
スザンナ「あっ」
スザンナ、俯いて首を振る。
スザンナ「すいません、忘れてください」
ブルースとダニー、顔を見合わせる。
ブルース「ダニー」
ダニー「はっ。お任せを」
ダニー、邸内へ向かう。
スザンナ「あの」
ブルース「ついてこい」
ブルース、笑みを浮かべてスザンナの

髪に手櫛を入れ、共に邸内へ向かう。

○ブルーフォード邸・外観（夜）

煌びやかな屋敷。窓から明かりが漏れている。

○同・ダンスホール・内（夜）

貴族達が踊っている。

質素なドレスを着たアリアナ、ローナ、マリーが、カール＝ブルーフォード（58）と向かいあって立っている。

アリアナは前のめりである。

アリアナ「まあ、ご子息が騎士に？」

カール「ええ、まあ」

アリアナ「確か今年で２０歳になられるとか」

カール「よく、ご存じで」

アリアナ「ローナと丁度同い年ですの！」

ローナ、作り笑顔でお辞儀する。

アリアナ「今度、ご子息も交えてお茶会など」

カール「いやあ、中々都合がつくかどうか」

カール、キョロキョロとあたりを見る。
カール「客人のようです、これにて失礼」
アリアナ「あ、お待ちを！」
カール、小走りでアリアナから離れる。
貴族の娘らがアリアナらを見、扇子で口元を隠して話し始める。
貴族の娘Ａ「またですわ」
貴族の娘Ｂ「あんなに露骨な玉の輿狙い」
貴族の娘Ａ「みっともないこと！」
貴族の娘ら、笑う。
ローナ、拳を震わせる。
ローナ「聞こえるように言うんじゃないわ」
マリー「お母様、帰りましょうよ」
アリアナ、力なく項垂れる。
アリアナ「そうね」
アリアナ、ローナとマリーを伴い、俯いたままホールの出入り口に向かう。
出入口の扉を開けてスザンナが入ってくる。スザンナは髪を編み込み、アラビア風の豪奢なドレスを着ており、赤

い宝石の首飾りを着けている。
アリアナ、スザンナにぶつかる。
アリアナ「ああっ、申し訳ございません」
アリアナ頭を下げる。
アリアナ「いずこの姫君か存じ上げませんが、大変な失礼を」
スザンナ「伯母様？」
アリアナ「は？」
アリアナ、スザンナの顔を見て、目をぱちぱちさせる。
マリー「ス、スザンナ？」
アリアナとローナ、ハッと息を吐く。
アリアナ「スザンナ！スザンナなのっ？」
スザンナ「は、はい」
カール含め、談笑していた貴族達がスザンナの周りに集まってくる。
貴族の娘A「なんて斬新な着こなしなの」
貴族の娘B「素敵だわあ」
スザンナ、首飾りを握る。
スザンナ「私、何かおかしなことを？」

カールがスザンナの前に進み出る。
カール「お嬢さん、お名前を伺っても？」
スザンナ「スザンナ＝ブランドンと申します」
一同「ブランドン！？」
出入口からブルースがダニエルを伴って入ってくる。ブルースは血色が良く見えるメイクをしている。
ブルース「然り」
ブルース、スザンナの肩を抱く。
ブルース「我が妻の社交界デビューが歓迎されたようで何より」
アリアナ「お前がブランドン！？」
ブルース、フッと笑う。
ローナ「素顔、初めて見たわ」
マリー、ブルースを見て口を半開きにし、手を握り合わせる。
ブルース「さあ、踊ろう。スザンナ」
スザンナ「え、ええ」
ブルース、スザンナの手を取って踊る貴族達の中に入っていく。

マリー「ずるい」
アリアナ「え？」
マリー「ずるいずるい！スザンナだけずるい」
ローナ「マリー、静かに」
マリー「どうして私じゃなくて、スザンナを
お嫁に出したの？お母様の馬鹿！」
アリアナ「お黙り！」
貴族ら、アリアナを見る。
アリアナ「帰るわよ！」
アリアナ、ローナ、マリー、ホールを
出る。
ブルース、スザンナと踊り始める。
スザンナ「私、やっぱり変だったのかしら」
ブルース「謙遜はよせ。皆そなたに見とれて
いたのだ」
スザンナ「（苦笑いする）まさか」
ブルース、眉を顰める。
ブルース「スザンナよ」
スザンナ「はい」
ブルース「そなたの心は、ここの」

ブルース、スザンナの胸元を指す。
ブルース「奥深くに閉じこもっておるのだな」
スザンナ「私の、心？」
ブルース「そうせざるを得ぬほど、碌でもない家庭であったか」
スザンナ「伯母様達は悪くないです」
スザンナ、俯く。
スザンナ「育ててくれただけで感謝しなきゃ」
ブルース「スザンナ」
スザンナ、ブルースを見上げる。
ブルース、スザンナの耳元に口を寄せて囁く。
ブルース「私は吸血鬼だ」
スザンナ、おずおずと頷く。
ブルース「人間の下らぬ良識には縛られん」
スザンナ「ええ」
ブルース「清廉でなくとも構わぬ。私はそなたのまことの心が知りたいのだ」
スザンナ、唇を噛み、ブルースの胸におでこを当てる。

スザンナ「お姉様も、お母様も大っ嫌い！」
ブルース「うむ」
スザンナ「すぐぶつし、怒るし、家を出て清々してますっ」
ブルース、高笑いする。
周囲の貴族らがギョッとした顔でブルースらを見る。
スザンナ「ブ、ブルース！」
ブルース「すまぬな。加減がわからなんだ」
ブルース、目を伏せる。
ブルース「声を出して笑うなど久方ぶりでな」
スザンナ「ブルース」
スザンナ、ブルースに身を寄せる。

○同・外観（夜）
夜空に星々が見える。

○同・バルコニー・外（夜）
ダンスホール直通のバルコニー。
テーブルの脇にブルースが立ち、夜空

の星を見ている。
邸内からスザンナが左に空のグラス、右に葡萄酒の入ったグラスを持って出てくる。
スザンナ「ブルース」
ブルース、振り返る。
スザンナ、ブルースに空のグラスを渡す。
ブルース「おお、すまぬな」
スザンナ、首を振る。
スザンナ「本当に空でよかったのですか？」
ブルース「ああ」
ブルース、胸ポケットから赤黒い血の入った小瓶を取り出す。
ブルース「自前の逸品があるのでな」
ブルース、血をグラスに注ぐ。
スザンナ「もしかしてそれ」
ブルース「血液だ。安心せよ、提供者には正当な対価を払っている」
ブルース、血を飲む。

スザンナ、口を押えて軽くえずく。
ブルース「それとも、やはり気味が悪いか？」
スザンナ「いえ！全然、大丈夫です」
ブルース「そうは見えぬがな」
スザンナ、溜息をつく。
スザンナ「正直、気持ちのいいものではありません」
ブルース「左様か」
スザンナ、首飾りを握る。
スザンナ「亡者も良くないと思ってます」
ブルース「何故だ。血液にせよ死体にせよ、正当な手段で手に入れているのだぞ」
スザンナ「そもそも血や死体をどうこうするというのが、苦手と言いますか」
ブルース「それは人間皆そう思うのか」
スザンナ「はい、そう、思います」
ブルース、手すりに腕を乗せる。
ブルース「故にか」
ブルース、グラスを強く握り、折る。
スザンナ「ブルース！？」

ブルース「故に、人間は吸血鬼を滅ぼすのか」
ブルース、ギュッと目を閉じて震える。
スザンナ、背後からブルースに抱きつく。
スザンナ「苦手でも、克服します」
ブルース「何？」
スザンナ「吸血鬼の妻ですからっ」
ブルース「スザンナ」
ブルース、スザンナに向き直る。
スザンナ「血だって飲みます！人間の血でも、吸血鬼の血でも！」
ブルース、フッと笑う。
ブルース「そこまではせんでよい。まして、吸血鬼の血など飲んだら死ぬぞ」
スザンナ「え？」
ブルース「人間の血と吸血鬼の血が反発し、肉体が崩壊すると聞く」
スザンナ、口をぽかんと開ける。
ブルース、スザンナを抱きしめる。
ブルース「ありがとう。そなたの心は何より

美しい」
スザンナ「ブルースだって」
ブルース、首を振る。
ブルース「私の心はドス黒く染まっている」
スザンナ「そんなことありませんっ」
ブルース、スザンナを離す。
ブルース「一族の仇、王家を滅ぼし復讐を完遂する。私の心にはそれしかない」
スザンナ、目を見開く。
ブルース「それでも、我が心は美しいか？」
スザンナ「はい」
ブルース「なんだと」
スザンナ「あなたの心は美しい。ただ、今は少しひびが入ってしまっているだけです」
ブルース「スザンナ」
スザンナ、俯く。
スザンナ「いつか、私が直してあげたい」
ブルース、スザンナの頬に手を当て、スザンナからグラスを奪う。
ブルースとスザンナ、見つめ合う。

ブルース、スザンナにキスをする。

○平野・国王軍野営地・外観（夜）

かがり火の炊かれた野営地。

○同・内（夜）

鎧兜で武装したエイブラハムが床几に座っている。

その両脇に武装した兵士がいる。

ジニスがその前に控え頭を下げている。

エイブラハム「然らば、噂は真であったか」

ジニス「は、はいっ」

ジニス、頭を上げる。

ジニス「ブランドン卿は吸血鬼なんですっ」

エイブラハム「大儀であった」

ジニス、頭を下げる。

エイブラハム「余には予感があったのだ」

エイブラハム、溜息をつく。

エイブラハム「これも宿命か」

ジニス、頭を上げる。

エイブラハム「やはり、あやつは生きている」
ジニス「あやつ？」
エイブラハム、立ち上がり、鎧に手を掛ける。

○ブルーフォード邸・バルコニー・外（夜）
ブルース、葡萄酒の入ったグラスを持ち、スザンナにキスをしている。
ブルース、眉を顰め、左手でスザンナの肩を掴む。
ブルース、唇をスザンナの肩に向かって這わせていく。
スザンナ、苦笑いする。
スザンナ「ちょっと、ブルース、嫌よ」
ブルース、スザンナの肩に牙を浅く突き立てる。
スザンナ、悲鳴を上げる。

○平野・国王軍野営地・内（夜）
エイブラハムが床几の前に立ち、鎧に

手を掛けている。
その両脇に武装した兵士が立ち、その前にジニスが跪いている。
エイブラハム「１６年前、余はとある吸血鬼と戦い、敗北した」
エイブラハム、鎧を脱ぐ。

○ブルーフォード邸・バルコニー・外（夜）
ブルース、葡萄酒の入ったグラスを手にし、スザンナの肩に牙を突き立てている。
ブルース、グラスを取り落とす。
グラスは砕け、葡萄酒が飛散する。
スザンナ、悲鳴を上げる。
ブルース「同じだ、あの時と」
ブルース、スザンナから後退りする。

○平野・国王軍野営地・内（夜）
鎧を脱ぎ、兜だけを装着したエイブラハムが床几の前に立っている。

その両脇に武装した兵士が立ち、その前にジニスがひざまずいている。

エイブラハム「余の血を吸った吸血鬼」

エイブラハム、右肩を露出させ、２つの穴をジニスに見せる。

エイブラハム「吸血鬼一族最後の生き残り、ブルース＝ドラクレシュティを仕留める。それこそ天に与えられし我が使命！」

ジニス、よろめいて背後に手をつく。

○ブルーフォード邸・バルコニー・外（夜）

床には葡萄酒を中心に砕けたグラスが散らばっている。

ブルースとスザンナが向かい合って立っている。ブルースが身を引いているのに対し、スザンナは手を伸ばしている。

スザンナ「ブルース、一体」

ブルース「同じ血だっ！」

スザンナ「え？」

ブルース「エイブラハム＝ウァレリアヌスと
同じ血が流れているっ」
スザンナ「ウァレリアヌス？それって」
ブルース「そなたは我が仇、王家の娘だ！」
スザンナ、慄く。
スザンナ「そんな、嘘」
兵士長の声「控えおろう！」
ブルース、邸内に視線を移す。

○同・ダンスホール・内（夜）
鎧兜で武装し、純銀の剣を携えたエイブラハムを先頭に、兵士達がダンスホールを行進している。
貴族達がざわざわとしている。
貴族らに混ざってダニエルがエイブラハムを見据えている。
兵士長「静まれい！国王陛下の御前である」
貴族達、静まり返る。
エイブラハム「ブランドンなる者を出せ。隠せば厳罰を下す」

ダニエル、犬歯を剥き出しにして唸る。

○同・バルコニー・外（夜）

床には葡萄酒を中心に砕けたグラスが散らばっている。

ブルースが邸内の様子を窺っている。

スザンナ、首飾りを握ってブルースの様子を見ている。

ブルース「何故わかった」

ブルース、スザンナに向き直り、首を掴む。

ブルース「間者であったか！」

スザンナ、えずく。

ブルース「所詮は、人間かっ」

スザンナ「ブルース、私」

邸内から悲鳴が聞こえてくる。

○同・ダンスホール・内（夜）

狼の姿になったダニエルが、国王軍を襲っている。

貴族達が逃げ惑っている。
エイブラハム、純銀の剣の柄を握って
ダニエルを睨んでいる。
エイブラハム「異国の魔獣か」
エイブラハム、抜刀する。
ダニエル、エイブラハムに突進し、鉤
爪を振るう。
エイブラハム、剣でダニエルの爪と打
ち合ううちに、軍勢から孤立する。
窓を蹴破って蝙蝠の姿のブルースが入
ってくる。
エイブラハム「吸血鬼！」
ブルース、急降下してエイブラハムを
掴み、飛び上がる。
兵士らは弓でブルースを射落とそうと
するが、ダニエルに妨害される。
エイブラハム、剣を振って牽制し、ブ
ルースの噛み付きを逃れる。
ブルース、エイブラハムを掴んだまま、
蹴破った窓から外へ出ていく。

○同・庭園・外（夜）

上空をエイブラハムを掴んだブルースが飛んでいる。エイブラハムは鎧兜で武装し、手には純銀の剣を持っている。

ブルース、急降下してエイブラハムを地面に叩きつける。

ブルース、エイブラハムから距離を取りつつ着地し、人間の姿になる。

ブルース「久方ぶりだな、人間の王よ」

エイブラハム、よろよろと立ち上がり、剣を構える。

ブルース「先王は息災か？」

ブルース、牙を剥き出しにする。

ブルース「貴様の次はあの男だ」

エイブラハム「うぬに次はない。否」

エイブラハム、剣を納め、拳を構える。

エイブラハム「まことであれば、うぬらの歴史は１６年前に幕を閉じるはずだったのだ」

エイブラハム、ブルースに向かっていく。

エイブラハム「吸血鬼滅ぶべし、それが世の道理ぞ！」

エイブラハムとブルース、組み合う。

ブルース「人間風情が、世の道理を決めるでないわ！」

ブルースとエイブラハム、殴り合う。

エイブラハムの拳はブルースにほとんどダメージを与えられないが、ブルースの拳はエイブラハムをよろめかせる。

ブルース「弱い！これが人間の力よ！」

ブルース、エイブラハムの腹を殴る。

エイブラハム、吐血する。

ブルースの顔にエイブラハムの返り血が付く。

ブルース「かように弱き生き物が、我こそこの世の王と思いあがっている」

ブルース、血を舐めて顔をしかめる。

ブルース「醜い。人間の心など、醜いのだ！」

ブルース、ローキックでエイブラハムに膝をつかせる。

エイブラハム、静かに剣の柄を握る。
ブルース「滅ぶべきは貴様らだ！」
ブルース、エイブラハムの頭を殴る。
エイブラハムの兜が飛び、癖のある巻き毛が露わになる。
ブルース、目を見開く。
エイブラハムにスザンナのイメージが重なる。
ブルースの体が硬直する。
エイブラハム、雄叫びを上げて抜刀し、ブルースを刺し貫く。
ブルース、膝をつく。
エイブラハム「3日3晩聖水に浸した銀の剣」
エイブラハム、立ち上がる。
エイブラハム「うぬには猛毒に等しかろう」
ブルース、口を開くも喉奥から青い血が噴き出す。
エイブラハム「人間は確かに個々では弱い」
エイブラハム、剣の柄を握る。
エイブラハム「故に知恵を絞り」

エイブラハム、剣を押し込む。
ブルース、呻く。
館の方から兵士達が駆けてくる。
エイブラハム「力を合わせるのだ」
エイブラハム、兵士達を一瞥する。
エイブラハム「それこそ万物の霊長たる資質」
ブルース、よろよろと立ち上がる。
エイブラハム「人間に仇なす吸血鬼は」
ブルース、弱々しくエイブラハムを殴るも、エイブラハムは動じない。
エイブラハム「滅ぶべくして、滅びるのだ」
ブルース、甲高い鳴き声を上げる。
エイブラハム、耳を塞ぐ。
館の方からダニエルが走ってきて、兵士達を跳ね飛ばしながらブルースに向かって駆けつける。
エイブラハム、ダニエルから身を躱す。
ダニエル、ブルースを咥えて走り去る。
エイブラハム、ダニエルの背を見送る。
兵士長の声「陛下」

エイブラハム、兵士らの方を振り返る。
兵士長がスザンナを伴い、兵士らをかき分けてエイブラハムの方へ来る。
エイブラハム、目を見開いて息を飲む。
エイブラハム「リサ」
スザンナ「えっ」
スザンナとエイブラハム、見つめ合う。

○同・応接間・内（夜）
窓から遠景の隠者の森が見える一室。
エイブラハムが椅子に座り、両脇に兵士が立っている。
扉が開いてスザンナが入ってくる。スザンナは赤い宝石の首飾りをしている。
エイブラハム、立ち上がってスザンナを迎える。
エイブラハム「よくぞ参った」
スザンナ、恭しくお辞儀する。
スザンナ「お初にお目にかかります」
スザンナ、顔を上げる。

スザンナ「スザンナと申します」
エイブラハム、スザンナの眼前に来る。
エイブラハム「生き写しだ」
エイブラハム、スザンナの頬に触れる。
エイブラハム「リサ、否エリザベスと」
スザンナ「本当に、私は陛下の」
エイブラハム、何度も頷いて自分の髪に触れる。
エイブラハム「この髪、そして」
エイブラハム、スザンナの首飾りに触れる。
エイブラハム「首飾りが何よりの証。母から受け継いだのであろう？」
スザンナ、頷く。
スザンナ「永久（とわ）の愛の証と申しておりました」
エイブラハム、口を一文字に結ぶ。
エイブラハム「余を匿ったことが知れれば、リサが吸血鬼の残党に狙われると思い、名を明かせなかった」
スザンナ「それで母は陛下の身分を知らずに」

エイブラハム、頷く。
エイブラハム「必ず迎えに行くと、その契りの証であったのだ」
スザンナ「そうだったのですか」
スザンナ、首飾りに視線を落とす。
エイブラハム「城に帰り、病に倒れている間にスザンナは修道院を追われてしまった」
エイブラハム、俯いて拳を握る。
スザンナ「母は」
エイブラハム、スザンナを見る。
スザンナ「最後まで陛下を信じておりました」
エイブラハム「まことか？恨まなんだのか」
スザンナ、頷く。
スザンナ「私達だけでもお父様を信じようと、そう申しておりました」
エイブラハム、涙ぐみ、スザンナの手を取る。
エイブラハム「すまなかった」
スザンナ「いえ！陛下が母を本当に愛しておられただけで、十分です」

エイブラハム「半身だった」
スザンナ「半身？」
エイブラハム「うぬの母は我が半身であった」
スザンナ「そこまで」
エイブラハム「リサを失ってから、我が心が満たされたことなど、一度たりとてない」
スザンナ「失えば、心が満たされない」
スザンナ、窓の外の隠者の森を見る。

○ブルーフォード邸・廊下（夜）
2階の廊下をジニスが歩いている。
ジニス、客室の前で止まり扉を開ける。

○同・客室・内（夜）
スザンナがカーテンとベッドシーツをロープに加工している。
ジニスが入ってくる。
ジニス「スザンナお姉様！」
スザンナ「ジニス！」
ジニス、ロープを見て目を見開く。

ジニス「一体何を」
スザンナ、口に指を当てる。
ジニス、押し黙る。
スザンナ「ブルースのところに行かなくちゃ」
ジニス「どうして！吸血鬼だよ」
スザンナ「うん。でも愛してるから」
ジニス、首を振る。
ジニス「だめだよ！行っちゃだめ！」
スザンナ、ジニスの下に行く。
スザンナ「私にはブルースが必要、そして」
スザンナ、しゃがんでジニスと目線を合わせる。
スザンナ「ブルースもきっと」
ジニス、しゃくりあげる。
スザンナ「初めてなの。誰かにとって、唯一無二の必要な人になれたって気持ち」
ジニス、俯く。
ジニス「僕だって」
スザンナ、ハッと息を飲んでジニスを抱きしめる。

スザンナ「ごめんね」
ジニス、泣く。

○ブランドン邸・玄関・外（夜）
馬上のスザンナが玄関に向かって来る。
スザンナ、玄関先で馬を停める。

○同・内（夜）
腹に手当の跡があるブルースがベッドで目を閉じて横になっている。
その脇に肩で息をしているダニエルが立っている。
ダニエルの足元に、青い血を滴らせる純銀の剣が刺さっている。
スザンナ、部屋に入って来て、ブルースを見て口を押える。
スザンナ「ブルース」
ダニエル、苦笑いしてスザンナを見る。
ダニエル「どうしても奥方様の部屋へと」
スザンナ、ブルースの方へ歩いて来る。

スザンナ「刺されたとは聞きましたけど」
ダニエル「ただの刺し傷ならすぐ治ります」
スザンナ「ならどうして」
ダニエル「純銀の剣です」
スザンナ「純銀？」
ダニエル「我ら魔の者には猛毒に等しい」
ダニエル、拳を握る。
スザンナ「そんな、助からないんですか」
ダニエル「既に全身の血が汚染されています」
スザンナ「じゃあ、血をあげれば」
ダニエル、首を振る。
ダニエル「保存血液では古すぎます。そして」
窓の外から鬨の声が聞こえる。
ダニエル、窓の外に視線を遣る。
ダニエル「新鮮な血を調達する時間もないようです」
スザンナ、肩を落とす。
ダニエル、扉に向かって歩き出す。
スザンナ「どこへ？」
ダニエル「最後の忠を果たしに参ります」

ダニエル、部屋を出る。
スザンナ、ブルースに向き直る。
ブルース、うわ言を口走る。
ブルース「スザンナ、スザンナ」
スザンナ「大丈夫よ」
スザンナ、ブルースの手を握る。
スザンナ「ずっと一緒よ」
スザンナ、微笑む。

○同・門前・外（夜）
エイブラハムの軍勢が屋敷に向かって進軍している。
邸内からダニエルが現れる。
ダニエル「王よ！」
ダニエル、狼の姿になる。
ダニエル「我が命にかえて」
ダニエル、構える。
ダニエル「貴様の首を我が主に奉らん！」
ダニエル、咆哮をあげて軍勢に突進する。

○同・スザンナの部屋・内（夜）

ベッドにブルースが横になっている。スザンナが手首から血を流し、目を閉じてベッドに突っ伏している。スザンナの脇に赤い血を滴らせる純銀の剣が転がっている。

ブルース、ゆっくりと目を開ける。

ブルース「生きて、いるのか、何故？」

ブルース、スザンナを見る。

ブルース「スザンナ、どうした！」

ブルース、スザンナの傷と剣を交互に見る。

ブルース「よもや、そなた、私に血を」

スザンナ、目を開ける。

スザンナ「ブルース、良かった」

ブルース「この出血量。そなた、死ぬぞ」

スザンナ「あなただって」

ブルース「なんだ」

スザンナ「逆の立場ならそうするでしょ？」

スザンナ、力なく項垂れる。

ブルース、スザンナに手を伸ばす。

○同・門前・外（夜）

狼の姿のダニエルが兵士に囲まれながらも暴れている。

兵士達、ダニエルに矢を放つ。

○同・スザンナの部屋・内（夜）

ベッドの脇に赤い血を滴らせる純銀の剣が転がっている。

ブルースがベッドの脇でスザンナを抱きしめ、泣きながら咆哮を挙げる。

○同・門前・外（夜）

無数の矢を受けた狼の姿のダニエルが地面に伏している。

ダニエルの周囲を兵士達が囲んでいる。

兵士達の中にジニスがいる。

兵士達をかき分け、帯剣したエイブラハムが歩いて来る。

エイブラハム「吸血鬼の使いよ」
ダニエル、唸る。
エイブラハム「言い残すことはあるか」
ダニエル「くたばりやがれ」
エイブラハム、溜息をついて手を上げる。
エイブラハム「構え」
兵士達、矢を弓につがえる。
ダニエル、目を閉じる。
巨大な蝙蝠の姿のスザンナが急降下し、ダニエルと兵士達の間に割って入る。
スザンナは首に赤い宝石の首飾りを着けている。
スザンナ、甲高い鳴き声をあげる。
一同、耳を塞ぐ。
ダニエル「我が君？」
エイブラハム「吸血鬼！何故生きておるっ」
ダニエル、鼻をクンクンさせる。
ダニエル「違う！あなたは」
兵士達、弓を構え直す。

スザンナ、青白い肌の人間の姿になる。
エイブラハム「待てい！」
ジニス、兵士達をかき分けて出てくる。
エイブラハム「スザンナ、スザンナなのか？」
スザンナ、頷く。
エイブラハム、兵士達に向かって言う。
エイブラハム「矢を降ろせ！我が娘ぞ！」
兵士達、構えを解く。
エイブラハム、スザンナに向き直る。
エイブラハム「スザンナ一体何があったのだ」
スザンナ「陛下、私は」
蝙蝠姿のブルースが空から急降下し、
スザンナの隣に降り立つ。
エイブラハム「うぬは！」
ブルース、人間の姿になる。
ブルース「人間の王よ」
エイブラハム、剣の柄を握る。
ブルース「そなたの娘に、我が血を注ぎ」
ブルース、スザンナの肩を抱く。
ブルース「我が眷属、吸血鬼とした」

エイブラハム「なんと、なんてことを」
エイブラハム、剣を抜く。
スザンナ「おやめください！」
エイブラハム「スザンナ」
スザンナ、首を振る。
スザンナ「私の意思でもあるのです」
エイブラハム、剣をより強く握る。
ブルース「そなたが最も愛した女との娘は、最早人間ではないという事実」
エイブラハム、呻く。
ブルース「それを、我が復讐となす」
エイブラハム「外道がっ」
スザンナ「私の母が！」
エイブラハム、剣を構えたままスザンナを見る。
スザンナ「母が、申していたのです」
スザンナ、目を伏せる。

○（回想）同・客室・内（夜）
頬のこけたエリザベス（２２）がベッ

ドで横になり、スザンナ（４）の手を握っている。

エリザベス、スザンナの声に合わせて口を動かす。

スザンナの声「いつか愛する人ができたら、ずっと、ずっと一緒にいてあげるのよ」

エリザベス、スザンナに微笑みながら一筋の涙を流す。

○元の門前・外（夜）

門の前に狼姿で、無数の矢を受けたダニエルが倒れている。

その前にスザンナとブルースが並んで立っている。スザンナは目を伏せている。

スザンナらに向かいあうようにエイブラハムとジニスが立ち、その背後にエイブラハムの軍勢がいる。

エイブラハム「リサ」

エイブラハム、剣を取り落とす。

ブルース、背中から蝙蝠の翼を生やし、
それでダニエルを縛るワイヤーを切る。
ブルース「ダニー」
ダニエル、人間の姿になる。
ブルース「参るぞ」
ダニエル「はっ」
ブルース、蝙蝠の姿になってダニエル
を掴み、飛び上がる。
スザンナ、エイブラハムらに背を向け
る。
ジニス、スザンナの方へ進み出る。
ジニス「お姉様！」
スザンナ、ジニスを振り返る。
スザンナ「ジニス」
ジニス「お姉様、もう、会えないの？」
スザンナ、頷く。
スザンナ「あなたも、幸せになるのよ」
スザンナ、蝙蝠の姿になって飛び上が
り、ブルースを追う。
スザンナとブルース、空高く飛び去っ

ていく。
ジニス、天に向かって叫ぶ。
ジニス「スザンナお姉様―！」
エイブラハム、膝から崩れ落ちる。

○隠者の森・内部（夜）
T・60年後。
三日月である。
狼の姿のダニエル（81）がジニス（72）を先導して歩いている。ダニエルはキャンバスを背負い、ジニスは鞄を持ち、杖をついている。
ジニス「もう少し」
ダニエル、ジニスに視線を遣る。
ジニス「ゆっくり歩いてくださらんか」
ダニエル「失礼つかまつりました」
ダニエル、歩くペースを落とす。

○ブランドン邸・跡地・外（夜）
ドラクレシュティ一族の人々の名前が

刻まれた墓石がある。
森の中から狼姿でキャンバスを背負ったダニエル、次いで鞄を持ち、杖をついたジニスが出てくる。
ジニス、辺りを見回している。
スザンナの声「ジニス！ジニスなのね！」
ジニスが空を見上げると、６０年前と同じ姿のスザンナ（７６）が降りてくる。
ジニス「スザンナお姉様」
スザンナ、着陸してジニスにハグをする。
スザンナ「懐かしい匂いだわ」
ジニス「お姉様、お変わりなく」
スザンナ、ジニスを離す。
スザンナ「あなたは、大きくなったわね」
ジニス、苦笑いする。
ジニス「寧ろ、近頃は縮んでおります」
スザンナ、口元を押さえてクスクス笑う。

スザンナ「もう、冗談まで言えるようになっちゃって」
ジニス「年の功ですな」
スザンナとジニス笑いあう。

○丘（夜）
６０年前と同じ姿のブルース（９０）が丘の上に立って三日月を眺めている。
ブルース、蝙蝠の姿になって飛び立つ。

○ブランドン邸・跡地・外（夜）
スザンナとジニスが横に並んで地面に座っている。ジニスの傍らに鞄が置かれている。
彼らの背後に狼の姿のダニエルが伏せている。
ダニエルの脇にキャンバスが設置されている。
スザンナ「孫？あなたに？信じられないわ」
ジニス「あれから６０年ですから」

スザンナ「そうよね」
スザンナ、口元を押さえてクスクス笑う。
スザンナ「ジニス」
ジニス「はい？」
スザンナ「今、幸せ？」
ジニス、力強く頷く。
ジニス「ええ、スザンナお姉様」
スザンナ、微笑む。
スザンナ「良かった」
ジニス、俯く。
ジニス「お姉様は」
スザンナ、小首をかしげる。
ブルースの声「スザンナ！」
スザンナ、ジニス、ダニエルが空を見上げると、蝙蝠姿のブルースが人間の子供サイズの数匹の蝙蝠を伴って飛んできている。
スザンナ「あなた！」
ブルース、着陸して人間の姿になる。

ブルース「すまぬ。だが」
ブルース、蝙蝠達を見上げる。
ブルース「私一人では手に負えぬ」
蝙蝠達、笑う。
スザンナ、腰に手を当てる。
スザンナ「本当、子育てが上達しないんですから」
ブルース「かなわぬな」
スザンナ、溜息をついてジニスに向き直る。
スザンナ「ジニス」
ジニス「はい」
スザンナ「さっき、何か」
ジニス「いえ、お構いなく」
スザンナ、小首をかしげる。
スザンナ「ええ」
スザンナとブルース、蝙蝠の姿になって蝙蝠達の下へ飛んでいく。
ジニス、スザンナらを見つめる。
ジニス「幸せか、などと」

スザンナとブルース、蝙蝠達と飛び回る。

ジニス「愚問でしたな、スザンナお姉様」

ジニス、鞄を持ってキャンバスの前に移動し、スザンナら一家の姿を描き始める。

ダニエル、三日月に向かって吠える。

〒110-0015
台東区東上野1-11-13
Nasic東上野205号
090-4753-8032
江連　泰知